

<基調講演>

「生徒をやる気にさせる教師とは？外国語教室における 動機づけとオートノミーの視点から」

エマ・ウシオダ（英国 ウォーリック大学）

【要旨】

授業中に生徒にやる気を起こさせるにはどうすればいいのだろうか。これは教師なら誰も考えたことのある課題であろう。しかし、実際は、「人をやる気にさせ、自律を促すような方法はない。やる気はテクニックから生まれるのではなく、その人の内面から生まれる」と、エドワード・デシがすでに1996年に述べた言葉どおりである。本講演では外国語教室における動機づけと自律的な学習を育成する上で、学習者の内面と学習者を取り巻く社会的要因との関係性に焦点を当てるとともに、教室における英語教師の役割について動機づけとオートノミーの視点から考える。

エマ・ウシオダ

英国ウォーリック大学応用言語学センター准教授、大学院プログラム主任として、主に博士課程の学生指導に従事。1982年より言語教育に携わり、これまでに日本、アイルランド、英国で教鞭を取っている。世界各国からの言語教育者を対象とした動機づけ・オートノミーに関するワークショップも行っている。主な研究分野は言語学習の動機づけ、異文化間交流、学習者オートノミー、社会文化理論および教師教育で、これらの分野での著書は数多い。近著に *International Perspectives on Motivation: Language Learning and Professional Challenges* (2013), *Teaching and Researching Motivation* (Z. Dörnyei との共著, 2011), *Motivation, Language Identity and the L2 Self* (Z. Dörnyei との共著, 2009)がある。現在、共同編集者として、*The Modern Language Journal* 誌の英語以外の言語学習における動機づけについて取り組んでいる。

